

◆環境課
☎ 587 - 6003
FAX 587 - 3834

STOP! 温暖化



二酸化炭素の削減に努めましょう！

「地球温暖化」は、私たち人間が大量の二酸化炭素(CO₂)を排出したことが主因となつて引き起こされました。その温暖化の影響が私たちの生活に欠かすことのできない「水」をも脅かすという恐ろしい仕組みができておりつつあります。

深刻化する地球温暖化によって、地球上の水にさまざまな変化が表れています。例えば日本では、雨がほとんど降らない日が増え、逆に局地的な大雨が増加するなど各地で甚大な被害を及ぼしています。また、中国やオーストラリアでもまったく雨が降らないなど、今までに例を見ない現象が確認されています。

◎家庭から排出されるCO₂の約4割は水まわりから？

水を安定供給するための浄水場や下水処理場での水処理など、水を使うことによって目に見えないところで大量のエネルギーが消費され、たくさんさんのCO₂が排出されています。

また、私たちの生活の中で使う水は、お湯として利用されるが多く、お湯を沸かすためにガスや灯油、電氣を使用することでCO₂が排出されています。私たち1人1日当たりでは、250～300リットルの水を消費しており、その内家庭から出るCO₂の4割は水まわりからともいわれています。

エコドライブで地球にやさしく

昨年11月12日、温室効果ガス削減を目的とした省エネ運転のノウハウを習得してもらおうと、市内の事業所から13人が参加して「エコドライブ教習会」を開催しました。

座学講義で発進時のアクセルの踏み方やアイドリングストップなどについて説明を受けた後、実際に道路に出てエコドライブを実践しました。

また、この日は電気自動車や天然ガス自動車の試乗体験も実施しました。



いよいよ出発！

5秒以上停止するときは、エンジンを止めると燃料の節約に！



◎地球の温暖化を抑えるために、身近な水の使い方を工夫しましょう！

例えばこんな取り組みが考えられます。

○洗面所で洗顔・歯磨きの水をこまめに止める。(1分間でペットボトル24本分)

○風呂でシャワーの水を出しっぱなしにしない。(節水シャワー用ヘッドをつける)

○トイレで必要以上に水を流さない。

○台所で食器や調理器具についた油污れなどをそのまま

流さない。(油污れなどを水と一緒に流すと下水処理に大きな負担がかかり、たくさんさんのエネルギーが必要となります)

○洗濯ものはまとめて洗う。(風呂の残り湯を洗濯に利用する)

○米のとぎ汁は、植物への水やり、拭き掃除や食器洗いに活用する。



毎月第4土曜は 廃食油回収の日

1月22日(土) 午前10時～午後1時

回収会場：市役所別館(旧コミセンやす) 横電話ボックス付近

回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課☎ 587 - 6003、エコロジーマーケットやすの会・増村☎ 586 - 1441

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(76)

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

【1月の休館日】1日(祝)～4日(火)・月曜・火曜日 ※10日は祝日開館

◆テーマ展「古代の土器・甕(かめ)」／

1月30日(日)まで

近江型甕、韓式土器甕、土師器甕、須恵器大甕など、弥生～奈良時代のさまざまな甕を展示しています。



棟札の調査と編さん会議

無くなっていますが、やはり明治の写しがあり、元の棟札と一体に釘止めされています。この時の神主は清兵衛、大工は長谷川茂左エ門、時の庄屋は田中喜兵衛と沢権兵衛とあり、旗本上田家領と旗本斎藤家領の庄屋と考えられます。貞享4年5月15日夜に下遷宮を行い、同29日夜に上遷宮を行っており、修理をしたと考えられます。屋根を葺いた檜皮屋長三郎は京都の職人でした。棟札の起草者「錦織寺浄蓮社澄譽利天」は、1685(貞享2)年看坊住職となり1690(元禄3)年退寺した利天上人と対応し、実在の人物です。錦織寺と神社が密接な関係にあったことが分かります。

その後、1792(寛政4)年5月、吉地村棟梁大工谷川若狭重道が修復し、1809(文化6)年12月に同じく大工棟梁谷川若狭重道が修復しています。そして、1874(明治7)年10月8日比留田村大工辻治郎兵衛が再建したこと、1913(大正2)年、1955(昭和30)年、1995(平成7)年にも葺き替えを実施したことが棟札から分かります。

地域の皆さんが地域の諸資料を調べ、地域の歴史をたどり原稿を書き本にまで仕上げている作業には苦労がありますが、喜びも多いものです。(博物館学芸員 古川与志継)

木部神社の棟札調査

むなふだ

木部自治会では郷土誌『木部誌』の編さんを進めています。今年度で編さんの仕事を始めて10年になるため、冊子としてまとめる作業が急ピッチで進められています。

この編さんの作業過程で、木部神社に古い棟札があることが以前の記録に見え、ことから、宮司さんに協力いただき木部史編さん委員会と博物館で調査しました。

本殿内に収められていた棟札は10枚ですが、古い2点の棟札は1895(明治28)年

に書き写されたものも残されていきました。最も古い南北朝時代、1373(応安6)年の棟札はかなり表面に傷みがあり、部分的にしか文字が見えませんが、明治の写しではもう少し多くの文字が書き写されています。縦83・0cm、横幅10・9～11・1cmで、厚さ1.0cmの長方形の板です。明治の写しは上が平らでなく剣形の棟札になっています。

「木部郷恵王子」の文字が認められ、応安6年8月15日に柱立てを行い、同29日に上棟したことが知られます。木部神社は恵王子社と呼ばれていました。そして、「錦織寺住持権大僧都綱嚴」の名前も記されています。錦織寺の歴史の中では存覚上人を四代目に配し、五代目を慈観上人に綱嚴としています。慈観は1351(観応2)年に錦織寺に入寺し、1419(応永26)年亡くなっています。大変古い時代のことです。

次いで古い江戸時代前期、1687(貞享4)年の棟札は、縦77・9cm、横幅10・9～12・5cm、厚さ1.2～1.3cmの剣形の棟札で、墨がかなり



応安6年の棟札(左・明治の写し、右・原品)